

新長田駅北・中地区まちづくり協定締結 ～杜の下町の創造に向けて新たな一歩～

平成21年11月24日、「新長田北・中地区まちづくり協議会」と神戸市の間でまちづくり協定を締結しました。本協定は、神戸市内で15番目、長田区では真野地区に次いで2番目のまちづくり協定となります。



新長田駅北・中地区は長田区の「新長田駅」と「西代駅」に挟まれた、御屋敷通1・2・3丁目、水笠通1・2・3丁目、松野通1丁目からなる地域です。阪神・淡路大震災では甚大な被害を受け、震災復興土地区画整理事業がすすめられてきました。平成21年3月には「水笠通公園」を完成するなど、概ねまちの基盤整備が整いつつあり、事業の終了も間近になってきました。

この地域では、住民主体の震災復興事業として、平成7年6月から順次、街区単位のまちづくり協議会や協議会連合会が設立され、地域のビジョン「杜の下町」構想が策定され、さらにその実現に向けて、市に対し様々なまちづくり提案がなされてきました。その集大成として、平成18年9月「協定等検討委員会」を結成、「まちづくり協定」締結作業がすすめられ、ニュースの発行や地区内の居住者、事業者のほか、地区外に居住する土地・建物所有者へのアンケート調査を実施し、住民の総意が反映されるようルール作りを進めてきました。

平成21年5月には、まちづくりビジョンを継承していく組織として、区域内の7つのまちづくり協議会が合併し「新長田北・中地区まちづくり協議会」を設立、協定締結が総会で承認され、今回の協定締結となりました。

◆新長田駅北・中地区まちづくり協定の概要◆

(1)まちづくりの目標

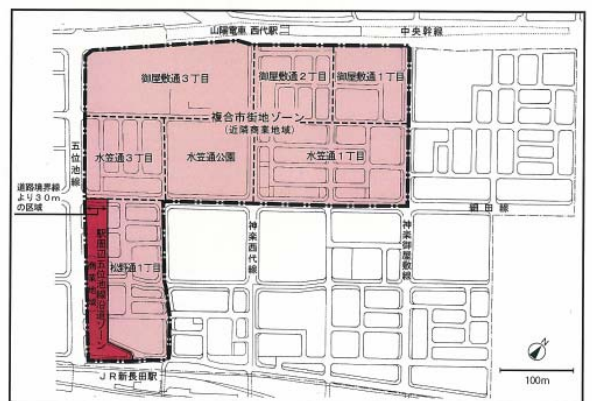
まちづくりのめざすべき姿を「杜の下町」とし、高取山の麓のまちにふさわしい自然豊かな環境を基盤に、人と人とのつながりを大切にし、住商工が一体となって、魅力と活力のあるまちをつくることを目標とする。

(2)協定の特徴

- ①地区のビジョンにそぐわない建築物の用途を制限
- ②青少年の健全な育成に不適当とみなされる業種や暴力団事務所などを制限
- ③地区のコミュニティを維持し世帯構成のバランスを図るため、ファミリー形式住戸を推奨
- ④ミニ開発やペンシルビル建設を抑止するため、敷地の細分化を制限
- ⑤生活環境の維持のため、建築物の高さを制限

新長田駅北・中地区まちづくり協定区域図

神戸市長田区御屋敷通1～3丁目、水笠通1～3丁目、松野通1丁目



凡	新長田駅北・中地区まちづくり協定区域界
例	町丁界
	<第6条> 駅周辺五位池線沿道ゾーン(商業地域の区域)
	<第6条> 複合市街地ゾーン(近隣商業地域の区域)

- 駅周辺五位池線沿道ゾーン(商業地域の区域)
長田地域の中心商業地の一部にふさわしい商業・業務施設の立地を図る。
- 複合市街地ゾーン(近隣商業地域の区域)
住宅と商業施設やその他の各種事業所等が複合しながらも調和した土地利用を図る。

(都市計画総局地域支援室)

WAT_Kobe Japan 2009が開催されました

～神戸の「景観と環境デザイン」を考える国際ワークショップ～

神戸市では、神戸の素晴らしい資源や魅力をデザインの視点で見つめなおし、磨きをかけることにより、新たな魅力と活力を創出し、くらしの豊かさを創造する「デザイン都市・神戸」を推進しており、平成20年10月には、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）・創造都市ネットワーク「デザイン都市」への加盟が認定されました。

このたび、その取り組みの一環として、国際的なネットワークを活かして「デザイン都市・神戸」を発信するため、国際ワークショップ：「WAT_Kobe Japan 2009」を11月9日から20日までの約2週間にわたり開催しました。

WAT (Workshop_atelier / terrain)は、ユネスコの社会科学事業MOSTプログラム (Management Of Social Transformation : 社会変容のマネージメント)の一環としてモントリオール大学が受け持っている「景観と環境デザイン」に関するユネスコ講座です。WATは2004年から毎年開催され、都市を指定して研究者と学生が集まり、当該都市の景観と環境デザインに関する課題についてのワークショップを行い、その成果を発表しています。2009年は神戸が開催都市に選ばれ、モントリオール大学とホスト都市である神戸市と神戸大学、神戸芸術工科大学の協力・連携のもと開催されました。

中国、カナダ、レバノン、シリア、モロッコ、チュニジア、イタリア、に日本を加えた、世界8カ国の学生47人、教員13人の合計60人が12グループに分かれ、設定した課題フィールドについて、グループディスカッションや共同作業を通じて提案を行いました。今回、中央区から兵庫区にかけて設定した課題フィールドは、①兵庫運河、②西出・東出、③旧湊川、④都心・ウォーターフロント、⑤生田川流域、⑥六甲山系山麓部の6つの地域です。



日程は、11月9日の市内視察から始まりました。市立博物館を訪問した後、中央区から兵庫区にかけてのフィールド全体を視察しました。翌10日は、開会式とイントロダクティブセミナーがフルーツ・フラワーパークを会場に行われました。ここでは、学識経験

者や市から、神戸の都市計画や景観施策、都市形成の歴史などについてのプレゼンテーションが行われ、神戸のまちの概略について学びました。

11日からは、いよいよワークショップ活動です。こうべまちづくり会館の3階、6階を会場に、各グループに割り当てられた課題フィールドについて、それぞれのテーブルで共同作業が始まりました。各グループは、色々な国籍の学生と教員により構成されていますが、言葉の壁を乗り越え、連日連夜、活発な議論が交わされ、期間中まちづくり会館は国際色豊かな熱気につつまれました。



アツという間に2週間が過ぎ、最終日の11月20日は、神戸芸術工科大学の吉武記念ホールを舞台に総まとめの行事が行われました。まず、成果発表です。各グループ2枚のパネルにより、学生から熱のこもったプレゼンテーションが行われました。すべて力作ばかりです。その後、審査会で厳正な審査が行われました。閉会式では優秀作の1～3位までが発表され、矢田神戸市長らからメダルが手渡されました。最後は、参加学生全員に認定書が渡され、2週間にわたるすべてのプログラムが終了しました。



この国際ワークショップを通じ、様々な文化的背景をもった学生達の共同作業によって新たな視点が生まれ、神戸の景観やまちづくりについて非常に貴重な提案をいただきました。神戸市としても、可能なものを今後の施策に反映させていきたいと考えています。

これからも国際的なネットワークを活かし、「デザイン都市・神戸」の魅力を発信していきます。

(企画調整局デザイン都市推進室・都市計画総局景観室)

※平成22年1月7日(木)～19日(火) 午前10～午後5時(水曜休館)
まちづくり会館3階多目的室で、学生達の提案パネル展を開催します。

西出・東出・東川崎の空間形成④

空間像研究会の活動 その13

大塚 映二（空間像研究会）

11. まち空間を活かしたイベント

歴史的なまち空間で、さまざまな芸術活動を行い、発表の場とすることが、大阪・空堀商店街の「からほりまちアート」をはじめ各地で行われています。このまちでもいくつか開催されましたが、ここでは代表的な二つのイベントを紹介します。

①潮の香りと歴史をたどるまちなみウォーク

まちの魅力資源を探すラリーをクイズ形式で行ったものです。神戸芸術工科大学の学生たちがクイズとラリーマップを作成しました。また、路地や空き倉庫を使ってアートシーンを表現する試みも行われました。



②まちのリズム場所のリズム

まち空間を使って、いろんなジャンルのアーティストたちが思い思いのアートを表現しました。このイベントも神戸芸工大の学生たちが企画しました。地域の人たちも「兵庫木遣音頭」の披露などをしてくれました。



12. ひとつの頂点～菜の花プロジェクト

長年にわたる大きな公共事業であった都市計画道路湊町線がいよいよ開通するというとき、地域としても開通記念事業を行うことになり、「菜の花プロジェクト」がスタートしました。なぜ菜の花かという、歴史を活かすまちづくりの流れの中で、まちの英雄的存在である高田屋嘉兵衛を主人公にした司馬遼太郎の歴史小説のタイトルが、『菜の花の沖』であったことです。小説では、嘉兵衛はふるさと淡路島の菜の花畑を懐かしく思うのですが、それにちなんで湊町線沿道を菜の花で飾り、開通を迎えようというわけです。



空き地のがれき撤去と土作りに始まり、種まき、苗

育て、植え付け、水やりといった作業を地域の人たちの力で、地域外からもたくさんの助っ人が駆けつけました。

湊町線開通時には、沿線は言うに及ばず、まちじゅうが菜の花で埋め尽くされましたが、黄色い花の色がこのまちに実によく似合っていました。この成果もあって、湊町線は「菜の花ロード」という愛称が付けられました。

13. 新しい展開～下町レトロに首っ丈

このまちをめぐる新たな動きとして注目されるのが、「下町遠足ツアー」です。このツアーは、“下町大好き”な若い女性たちを中心とした「下町レトロに首っ丈の会」というグループが主催するイベントです。毎月第4日曜日、主に兵庫～長田の下町らしさを求めて、いろんな趣向でまち歩きツアーを開催しています。このまち、特に稲荷市場や小さな町工場は人気スポットで、過去33回の開催中9回も訪れています。

このツアーを通じて、まちの魅力の再発見と併せ、人と人のつながりが広がっているようです。



読売新聞 2005年10月26日(朝刊)

14. 模索のステージから

震災後、このまちで展開されてきた、歴史を活かしたまちづくりは、住民の中に勇気と希望をもたらしたといっても過言ではないでしょう。その舞台になったのがまち空間であり、そこに住む人びとの暮らし・営みが主役であることも明らかになったと思います。

残念ながら、まちづくりの中心であった方々が高齢となり、いまの活動は困難に直面し、模索が続いていると聞いています。しかし、まちに入り込んだ学生たち、あるいは下町レトロの若い女性たちの元気な姿に呼応して立ち上がる地域の人たちがいるはず。このまちの将来に期待したいと思います。

(西出・東出・東川崎は今回で終わりです)

発信！！まちセン研究ネット⑦ 水谷ゼミナール

新年明けましておめでとうございます。今回は、水谷ゼミナールを紹介いたします。このグループは、神戸及び阪神間で主に都市と建築の分野で活躍された故・水谷頌介先生(1935年東京生まれ、阪神間育ち、1993年福岡にて没す)の弟子と自称する者とその友人、知人、又その弟子達が集まって「都市と建築」について勉強する会です。

平成4年10月にスタートし、2ヶ月に1回、年6回、こうべまちづくりセンターを拠点として定期的に勉強会を行っています。案内メンバーは、約60人で平均参加率は2〜3割です。数年ごとに外部に向けたシンポジウムやプロジェクトパネル展を行って来ました。去年で18年目を迎え、平成21年6月に100回記念イベントを行い【今・若手が「町住区」を語る】

のリレートークを行いました(「町住区」は、水谷頌介先生の学位論文のタイトル)。閉鎖的な名前の会になってはいますが、実態は、比較的オープンに運営しており、「都市と建築」に関心のある方は、学生さんも含めて誰でも参加して頂いて構いませんので、お近づき下さい。(シーユー計画研究所 info@gu-keikaku.com)



水谷頌介先生追悼記念シンポジウムの様子

100回記念イベントの様子(懇親会)



まちづくり会館 展示のお知らせ

1階オープンギャラリーの予定

期間	テーマ・内容	主催者
1月	空から見た震災復興写真展ほか	都市計画総局地域支援室
2月	(〜12日)ユニバーサルデザイン展	保健福祉局計画調整課
	(15日〜)北区フォトコンテスト入賞作品展	北区まちづくり推進課
3月	(〜15日)まちづくり学校展	都市計画総局地域支援室
	(16日〜)美しいまちこうべの推進	市民参画推進局地域力強化推進課

※展示期間が変更になる場合があります。

地階ギャラリーの予定

期間	テーマ・内容	主催者
1月7日(木) ~ 1月12日(火)	神戸大学写真部 部展	神戸大学写真部
1月15日(金) ~ 1月19日(火)	第21回公募写真展	兵庫労働者福祉基金協会
1月22日(金) ~ 1月26日(火)	ドキドキ展<油彩・水彩等>	もともちハートミュージアム2010
1月28日(木) ~ 2月2日(火)	シルバーカレッジ11・12期絵画展<油彩・水彩等>	シルバーカレッジ11・12期 絵画同好会
2月6日(土) ~ 2月7日(日)	神戸の客船と旅客機<水彩・写真>	みなとこうべ写楽の会
2月11日(木) ~ 2月16日(火)	きんもくせい <small>の</small> 会 絵画展<水彩等>	きんもくせい <small>の</small> 会
2月18日(木) ~ 2月23日(火)	第7回須磨火曜スケッチの会作品展<水彩>	須磨火曜スケッチの会
2月25日(木) ~ 3月2日(火)	第12回遊遊会 水彩画展	遊遊会

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間：午前10時〜午後6時(水曜日休館)

場所：元町商店街4丁目西端の南側角

地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分

神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分

「西元町」東口から東へ5分

JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分

〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546

ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談

受付：午前10時〜午後6時(水曜日休館)

ただし、印刷は5時まで

電話・FAX：078-361-4565